



肥後の赤牛を語る座談会

# 日本牛肉役 めざして

役牛の随一として全国的に名をはせている「肥後の赤牛」は、近年とみに盛んになった酪農とともに、本県畜産界のホープです。中でもその本場たる阿蘇中、南部の現状について、最近のルポをお伝えしましょう。

## 第一会場 高森

六月三日高森町の南阿蘇畜産農業協同組合では、組合長の小屋迫一氏をはじめ別記のような斯界のベテランたちが審査員となって、今秋熊本で催される全九州の畜産共進会に出陳される赤牛の予選が行われた。牛舎の中から文字通り全身縞（あか）い毛なみもつややかに、たくましく生育した牛が十頭ばかり次々に広場へ引出され外観、身長、胸囲、管囲、歩き方等々しさいに検分される。午すぎ一応の審査を終って、筆者の希望による座談会が開かれた。

## 主食用ともころし……★

小屋迫……本日審査の結果は追ってお知らせしますが、今秋の共進会でもぜひ優秀な成績を収めるよう、今後十分な飼養をお願いします。なおこれから褐毛和牛生産状態について、広報くまもと七月号のために座談会を開きますので、存分にかねての体験や意見希望などを出して下さい。

司会……まず赤牛の今日に至った歴史について伺いたいのですが……

島田……明治三十年頃までは産牛馬組合というのがあって主に軍馬の育成をほかったのですが、その後法律によって畜産組合が生れてから牛の改良にも力を入れ、シンメンタル種のルディ号というのを種牛として導入しました。赤牛は今日全国に六〇万頭も分布する盛況を示していますが、これは代々先覚者のよき指導の下に、農家が注意深く愛育した結果です。

司会……飼料についてどなたか……

(久木野)……主としてともころしで、それに豆かす、米ぬかなど、大体自給自足です。

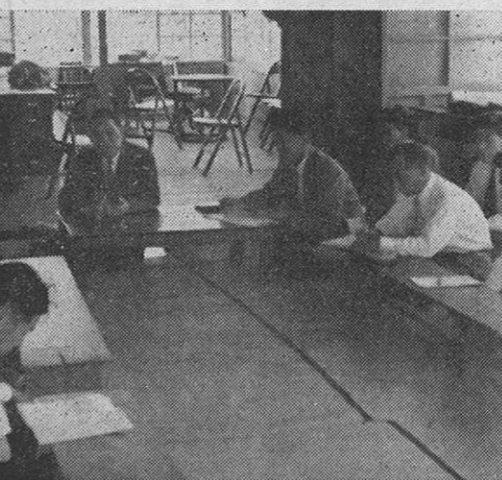
司会……放牧はどんな具合ですか。(白水)……五月の十日頃から七月の卅日頃までですが、久木野あたりでは十月中部地方では十一月頃まで放牧します。その間夕方遅く帰って朝放牧するところもあり、牧へおき放しにして時々味噌や塩をもって行くところもあります。

## 温順、強健、早熟……★

司会……赤牛が歓迎される理由、つまり特長というところをどなたか……

小屋迫……温順で粗食に堪えしかも早くふとる、つまり循環が早い、又寒暑に強く、乳が多いので仔牛の発育がよいというような点で一般の黒牛や朝鮮牛、高知赤牛などより好評なわけです。

林……毎年二万頭位県外へ出ますが、最近食肉の需要が多くなったので役牛としてのみでなく肉牛としても大きな将来性を約束されています。県でもその面で生産と肥育と両面から改良をはかっている方針です。



高森会場のスナップ……★

急ピッチ牛の値上り……★  
司会……売行の現状はどうですか。小屋迫……南部畜協は高森、白水、山西、菅尾の四市場で年間五千頭位の仔牛を取扱います。せり市は一、三、五、七、九、十一、十二の七回開きますが、生産農家では早く金にかえたがるため仔牛は三四ヶ月のものが大部分、従って値も安いので、今後は五ヶ月以上は飼育して高値に売るように望んでいます。それでも去年に比べると五月の市では約三割六分位高値になっています。

島田……肉食の風習が盛んになったことが第一の原因でしょう。

林……三十二年の統計では生産よりも屠殺の方が十五万頭も多かった程です。そこで黒牛なら一年のところを十ヶ月でふとるほど早熟な赤牛が歓迎されるわけて、それに最近皮が値上りして半年で生皮一枚が四千五百円から八千円にもなっているの、従って雄牛も従来雌牛の三分の一だったのが三分の二位で売れ、生後四〜五カ月のもので二万五千円から三万円を呼んでいます。それだけ生産者も安定したわけですが、もともと大きく売れば更に高値で売れることを忘れてはなりません。

司会……では最後に組合長さんのご抱負を一言……

小屋迫……黒牛と赤牛は歴史的に競走して来ましたが、役牛としてはすでに赤牛が勝利を占めて終戦直後全国に二十五万頭だったのが現在六十万頭にもふえています。ところが肉牛としても黒牛に劣らぬことが証明されている今日その方でも黒牛以上という声価を確立して、役、肉ともに全国一とすることが、赤牛の原産地たる阿蘇部の使命だと思います。

そのためには先ず阿蘇の大牧野をもっと改良して、風に弱いとうもろこしだけに依存せず、自家用作物で飼料を自給することができるよう努力することが必要です。

## 第二会場 宮地

翌四日は一ノ宮町宮地の家畜保健所で前日同様の予選会が催され、湯浅正二組



赤牛の審査風景……★

合長外の審査員が慎重な検査を行ったがこの日は阿蘇農業高校畜産科の二三年生約百名も参加、実地見学に熱心な研究を続けた。

終って座談会に移り、多数の飼養家も加わって意見を交換した。話題は前日と異った面が多いので、左に要項を採録する。

## 牧草の改良が第一……★

司会……飼料の面で刈り切りのことからお聞きしたいのですが  
(波野)……刈りは十月の初めから二十日頃までが普通です。これは放牧地ではなく採草地ですが、反当り一五〇貫から二〇〇貫刈ります。フスマに換算して一俵半から二俵位ですが改良された牧草つまりクローバーのようなものは反当年四回で一千貫、フスマで二十俵にも当ります。  
(内牧)……早期栽培の裏作に青刈飼料

をつくることについて御指導を……

重森……青刈は主として和牛より酪農の方ですが、これにはぜひ飼料圃がほしいと思います。これは八月以後の飼料として大切なもので、目下その簡易な乾燥法を研究しています。

クローバーは完全飼料で、反当二千貫とればフスマ四十俵にも当ります。一頭の食糧は日に十貫から十五貫ですからサイロをつくって保存する必要があります。  
(波野)……波野ではまだサイロは少ないのですが、今の飼料圃は一反位ですから今後は五反位に広めサイロも大いに利用したいと思っています。しかし青刈よりも放牧地の改良が先決問題ではないでしょうか。

林……県では馬場豆乳(一ノ宮町)に六十町歩の草地利用放牧試験地をつくり、内二十町歩を昨年から試作しました。が好成績なので逐次広めてゆきたい希望をもっています。

寺本……要するに経費の問題ですね

司会……赤牛の評判は如何ですか。

(荻町) (大分県)……荻町には約千五百頭の牛がいます。その八割は赤牛で、年々二百頭位ふえていきます。それというのも赤牛は粗食にたえる上に、黒牛より二割五分から三割も高く売れるということが何よりの魅力です。

司会……その他の御意見を伺っても……

(古城) 茂った牧野でも毒草があると牛が食いません。牧番の注意を望みたいと思いま

(山田)……肉牛の需要がふえても肥育にかたよって生産をおとさぬようにしたいものです。

(中通)……小国で酪農が始まってから赤牛も飼料がよくなつて生育が進んできました。

阿蘇農高……学校では基礎的な学習が主ですから畜産団体と連絡を密にして応用面にも研究を進めたいと思います。

(内牧)……農業県熊本に農大がないことは残念です。ぜひ広報面で世論をおこしてもらうことを熱望します。

湯浅……阿蘇の赤牛は北海道を除くと全国に分布し、黒牛に対して優秀な声価を持っています。今後の赤牛の総元縮として益々数を増産するとともに質の向上に努め、役肉ともに全国の代表的な優性を確立するようお互いに努力したいと考えます。

## 出席者(数字は会場)

- ① 南阿蘇南部畜産農協組合長 小屋迫 一
- ② 阿蘇郡中部畜産農協組合長 湯浅 正二
- ① 南阿蘇畜産農協参事 安方 三治
- ① ② 日本褐毛和種登録協会県支部技師 島田 義男
- ① ② 経済部畜産課生産係長 林 明任
- ① ② 阿蘇事務所畜産課長 重森 正美
- ① ② 阿蘇畜産連業務部長 寺本 一人
- ① ② 県畜産連業務部長 高野 定元
- ① ② 県種畜場技師 河津 幸喜